

日本のテレビドラマにおけるジェンダー表象の変遷

—2000 年以降の分析—

小林晴佳

本研究は、テレビドラマがどのようにジェンダーを描き、視聴者の意識にどのような影響を与えてきたかを明らかにすることを目的とする。近年、ジェンダー問題への関心が高まる中で、「ジェンダー平等」が重要なテーマとなっている。日本では依然として、職場や家庭内での男女の役割分担の固定化、女性の社会進出に対する壁、性別に基づく差別が問題となっており、これらを解決するための意識改革が求められている。

第1章では、テレビドラマがどのように社会の価値観や文化を反映し、視聴者に影響を与えるかについて概説した。テレビドラマは、時代背景を反映するだけでなく、新たな価値観を提示し、ジェンダー問題に対する意識改革を促進するメディアであることを示している。

第2章では、過去の研究に基づき、テレビドラマにおけるジェンダー表現の変遷を振り返った。1970年代から1990年代にかけては、男女の役割分担を反映した家族像や職場での性別役割が描かれ、男性優位の社会が色濃く反映されていた。しかし、1990年代後半からは女性の自立やキャリア志向が描かれ、2000年代以降、働く女性や男性の家事分担が描かれるようになり、性別役割の転換が試みられるようになった。しかし、依然として固定化された描写が残っていた。

第3章では、最近のテレビドラマにおけるジェンダー表現の変化を分析した。LGBTQやジェンダーレス、性自認に対する理解が進み、テレビドラマにも多様なジェンダー表現が増えている。同性カップルや性別を超えたキャラクターが描かれる作品が増加し、視聴者に新たな価値観を提供する一方で、調査結果に基づくアンケートでは、まだ一部の視聴者が固定的な性別役割に基づく描写を好む傾向が見られることも明らかになった。この結果、ジェンダー平等に向けた意識改革には時間がかかることが示唆された。

第4章では、テレビドラマがジェンダー平等にどのように貢献できるかを考察した。ドラマにおける性別役割の描き方や人物像の変化は、視聴者に強い影響を与え、ジェンダー平等社会の実現に向けた動きを加速させる可能性を秘めている。しかし、依然として固定的な性別役割や差別的な描写が残っており、これらを解消するためのさらなる意識改革が求められる。

テレビドラマにおけるジェンダー表象は社会的価値観の変化と密接に関連しており、ステレオタイプを払拭するためにはメディア制作側の意識改革が必要である。また、視聴者自身の態度の変化も求められ、今後はジェンダーを超えた多様な価値観が反映されることが期待される。その過程において、メディアの役割は重要である。